

人をつなぎ 未来をつなぐ  
明石のコミュニティ・スクールだより  
KOMIKOMISUKUSUKU

## 未来への教育を考える特別号

明石市教育委員会事務局学校教育課

mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp



TwitterQR  
未来への教育を考える特別号

No.5 2021.2.5

今号では放課後児童クラブ事務局におられる玉田元校長先生から寄せられた感想と本所指導主事  
の原稿を読まれての大久保南小寺田校長先生の感想をご紹介します。

### 1996年中央教育審議会答申を読んで感じたこと

特別号を見させていただきました。最初は、1996年の中教審答申を今の提言かと思って見て、  
すごく違和感がありました。やはり、25年経つといろいろなことが変わったんだということを実感し  
た次第です。まず、「ゆとり」という言葉にひっかり、学校家庭地域の連携、学校教育内容の厳選、  
家庭や地域の教育力、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題と、今考えると、当たり前のこと  
ばかりが並んでいるなど感じています。逆に、どれもできていないことばかりで、25年経っても何も  
達成できていないのかと悲しくなるばかりです。でも、確実にこれらのことは課題として、学校にも  
社会にも認知されたのではないのでしょうか。それを1歩目と考えてもいいように思います。また、  
大学入学共通テストにも盛り込まれたように、自ら学び、様々な情報を活かして、自ら考え、判断し  
ていくことは大変重要で、大きな方向性も決して間違っていないのですが、では、現場でどれだけ教  
師の意識改革が進み、授業改善が図られ、子どもが変わってきているのかについては大きな疑問です。

さらに、コロナ禍での学力はある学者は、ドンドン伸びているし、格差が広がっていることも感じ  
るといったように、学習面での転換(私はどうしても理科屋さんなので、実体験のない教育には抵抗を  
感じています)を求められて、変わりきれない私のような教師や体制にとまどっている学校も多々あ  
るのではないのでしょうか。また、本当にオンラインのみの教育が進んでいったときに子どもの心のす  
さみとか荒れとかがどうしても増えていくように思います。そのためには、どうすればいい  
のか。今は答えが見いだせない状況ではあります。

同様に、放課後児童クラブに関わる立場から見えてくる学校の閉鎖性も感じています。自分が校長  
の時にできていたのかというと、たぶんできていなかったと反省もしていることでもあるのですが、  
最近あったことで「先生鬼ごっこしてもいいの」や「外遊びでマスクしないといけないの」と、子  
どもから支援員が聞かれてびっくりした学校があります。聞いてみると先生から禁止になったとのこ  
とで、慌てて教頭先生に尋ねたといったこともありました。大変な状況下の学校現場ではありますが、  
様々な連携の一環として、まずは同じ敷地内で同じ子どもたちの通う放課後児童クラブとの連携につ  
いても目を向けていただければと願っています。

ふと答申の中で「父親には」という表現がありますが、今はこんな表現はできないだろうと感じ  
て、私自身も変わってきたなと実感もしています。25年経ってどう変わってどうできてきたのか見直  
すことは面白いなと感じました。

ふと答申の中で「父親には」という表現がありますが、今はこんな表現はできないだろうと感じ  
て、私自身も変わってきたなと実感もしています。25年経ってどう変わってどうできてきたのか見直  
すことは面白いなと感じました。(一般財団法人あかしこども財団放課後児童クラブ玉田 絹夫)

### 「未来への教育を考える特別号 No.3」を読ませていただきました

年代を追った分析に「なるほど」と感心しました。とても分かりやすいです。

わたしはと言うと「少子高齢化」という言葉を聞いたのはもう、すごく昔のことですが、その時は

「少子高齢化」がもたらす現実に目を向けられていなかったと今更ながらに反省しています。そして今、本所指導主事さんが並べてくれている事柄・言葉について「少子高齢化」の時のように、言葉の意味だけで、深く考えないことが20年後に大変なことに繋がっていて、これからもつながって行くと思うと焦ってしまいます。でもそういうながらも、心の根底には「今の状態がそれほど大変でない」と感じている現実があるのだと思います。今の状態が明日も明後日も続くと思っているのかもしれませんが。(他人事のようにですが…)

では自分は何をすべきか…。とりあえず、目の前の一步を踏み出すことが大切だとわかっています。でも、どっちに向かって、どのくらいの歩幅で一步を踏み出せばよいのか…そんなことを考えるだけで何もできていないように感じています。

担任の先生が子どもたちに「今日の宿題をすることは小さい事だけど、今頑張り続けることは未来の自分に大きな事となって戻ってくるよ。」と言っているのを聞きました。「まさに、教師が少しずつ頑張り続けることの意味」に繋がると思います。

話は変わりますが「GIGA スクール」のタブレット。「たくさん問題をすることができてドリルがなくてもできる便利な道具」くらいに考えてはいけないと思っています。しかし習得場面での利用法は？活用・探求場面では…根本から考えないとだめですね。わたしのように昭和の人間は間違いなくIT 機器を子どもたちより使いこなす技能に劣っています。だからこそ、「使いこなして、教えてあげる」というスタンスでは到底太刀打ちできません。その前に、タブレットを使ってできること、いやすべきことを校内でしっかり研究？する必要があると感じています。「学びのスタイル」自体の変換が必要ですよね。

ただ学校に脈々と流れ、守り続ける必要がある教育もあると感じています。

わたしは①人も自分も大切にできる力 ②自分で考える力 ③②を表現したり行動したりする力、その3つの力をつけていきたいと考えています。

それを、どの場面でもぶれずに子どもたちに問い続けていきたいと考えています。

そのためには一人では何もできない。「チーム学年」で「チーム学校」でそして「チーム校区」でと広げて続けていくことが今、すべきことかと考えています。そのことと、未来に向けてめざすことがしっかりリンクしないと意味がないと思います。

「20年後」という話ですが、今の情報化時代におけるスパンはもっと短いのではないのでしょうか？だからこそ、迷わず今の一步を踏み出すこと大切ですね。本所指導主事さんの感想を見ていてそう思いました。わかっているのですが…

(大久保南小学校 寺田 嗣也)

玉田先生、寺田先生、お忙しい中、無理なお願いにもかかわらず、投稿いただきありがとうございます。読みながら、私も含め各々が教師像をもっており、変化は必要だと考え、そこから脱却しなければともがいているが、身と心がついてこないといった感じが共通しているなと感じました。また、我々世代は、学習指導要領＝授業改善といった受け取りで、学習指導要領の改訂ごとに授業改善という指導方法にばかり目が向いていたように思います。今こそ“How to”ではなく、学習指導要領からのメッセージに耳を傾けることが必要なのではと思います。メッセージに耳を傾けると“学校の閉鎖性”と玉田先生が書かれていますが、何を“開く”のかが見えてくるのではと思います。そして寺田先生が書かれている“心の根底には「今の状態がそれほど大変でない」と感じている……今の状態が明日も明後日も続くと思っているのかもしれませんが。(他人事のようにですが…)”は正直私の本音でもあります。コロナ禍の中で、今まで感じたことがない、世の中が動いているということを感じられている方も多いのではと思います。こうした感想や考えを出し合い、交流する中で、今後の教育を考える視点が出てくるように思います。それがポストコロナに向けて踏み出す一步ではと思います。

皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。保護者の皆さま、地域の皆さまからのご意見・ご感想も大歓迎です。

(文責：北本)